

地域福祉経営に関する研究・支援の中間報告

— 地域福祉経営に関する山形村と松本大学の協力 —

松本大学総合経営学部
白 戸 洋

事業の概要及び実施状況

この事業は、山形村と松本大学及び松本大学松商短期大学部が、地域福祉経営をテーマにして双方の協力を行なうものである。具体的には、インターンシップを通じた地域福祉事業の支援、地域福祉経営やコミュニティ・ビジネスに関する共同研究、地域福祉推進委員会や講演会講師などへの教員の派遣、地域福祉計画策定への参画、職員の研修・学習への大学の協力、地域福祉に関わるコミュニティ・ビジネスの事業の共同実施、退職した高齢者や子育て中の母親などの仕事づくりを通じた生き甲斐・子育て支援などの総合的なプログラムによって構成されている。本学との協力体制は、平成14年度より、ボランティアセンターのアシスタント・コーディネーターとして4名の学生が派遣されているインターンシップや月例の地域福祉経営学習会などによって開始された。

平成15年度には特産物の「むかご」(山芋の肉芽)に関するコミュニティ・ビジネスの実践を共同で実施している。今回これまでの実績を踏まえ、協力内容を明文化して協定を締結した。

協 定 書

山形村と松本大学及び松本大学松商短期大学部は、地域の福祉を進展させ、あわせて人づくりを行なうことを目的として次のとおり協定を結ぶ。

- I 目的** 山形村の福祉づくりと大学生の地域の中での育成
- II 内容**
- 1 インターンシップを通じた地域福祉事業の支援
 - ① 社会福祉協議会ボランティアセンターへの学生の派遣
 - ② コミュニティ・ビジネス「むかごプロジェクト」への学生の参加
 - 2 共同研究
 - ① 地域福祉経営学習会の開催
 - ② コミュニティ・ビジネスに関する共同研究とモデルプロジェクトの実施と評価・今後のコミュニティ・ビジネスの展開の検討
 - 3 大学教員の派遣
 - ① 社会福祉協議会地域福祉推進委員会への教員の委員としての派遣
 - ② 講演会・研修会などへの教員の講師としての派遣
 - 4 地域福祉計画策定への教員・学生の参画と協力
 - 5 その他の事業
 - ① 職員の研修・学習への大学の協力
 - ② 地域福祉に関わるコミュニティ・ビジネスの事業の共同実施
 - ③ 退職した高齢者や子育て中の母親などの仕事づくりを通じた生き甲斐・子育て支援
 - ④ その他地域福祉や地域に関わる事業
- III 協定の有効期限** 本協定の有効期限は、平成17年3月31日までとする。

平成15年11月5日

長野県東筑摩郡山形村山形2030-1

山形村長 齊藤 清



長野県松本市新村2095-1

松本大学

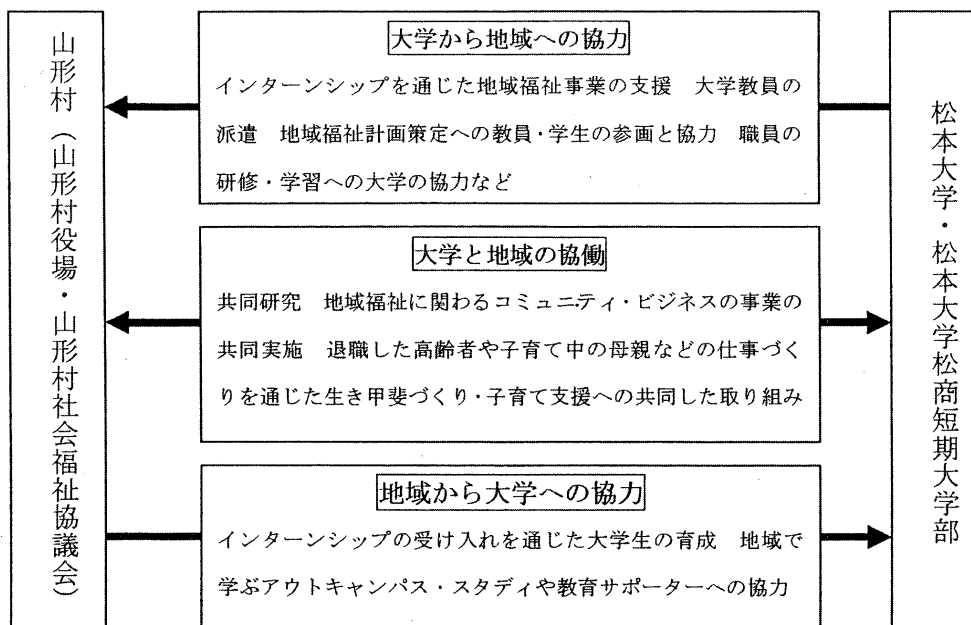
松本大学松商短期大学部

学長

中野 和典



山形村と松本大学協力体制概念図



事業の将来計画と期待される効果等

本事業は、山形村の福祉づくりを大学が地域に参画して展開するとともに、大学生を地域の中で育てることで、将来の地域を担う人材を地域が大学に参画して育成する事を目的としており、地域が大学の人材や知見、技術などを活用するとともに、大学が地域で学ぶアウトキャンパス・スタディや教育サポーター制度を通じて地域の知恵、教育力を活かしていくことが期待される。今後、新たに地域福祉計画策定への参画、職員の研修などより密接な協力を行なう予定である。

平成16年度においては、山形村における地域福祉計画策定を本学学生が参画して行なう他、本学学生が講師となったIT講習会などを実施する予定である。

今回は平成15年度に着手した「むかごプロジェクト」について報告する。

学生参加型－「松本大学地域行政コース演習Ⅱ・アウトキャンパス」授業として－

「山形村むかごプロジェクトに参加して考えるコミュニティ・ビジネス」

背景

山形村は松本市に隣接した、人口8130人のやまいもの特産地として知られる村である。近年、住宅開発が進み新住民も増加しつつある村で、工業団地の開発やアイシティなどの大規模ショッピングセンターもできて、開発が進んでいる村である。

山形村は、松本市が進める市町村合併に対して、自立を選択するという方針を打ち出し、村としての生き残りを進めている。今回の「むかご」プロジェクトを実施する山形村の社会福祉協議会は、地域福祉の担い手としてこれまで事業を展開してきたが、村の自立の方向を踏まえて、自立した地域福祉を住民が自らの手で確立することをめざしている。

具体的には、社会福祉協議会にボランティアセンターの運営委員会を住民主体で組織して活動を展開したり、「ぼぼねっと」という住民参加型の地域福祉の事業を展開し、高齢者の生活や障害者の移送などのサービスを行ってきた。

「ぼぼねっと」では福祉サービスにとどまらず、厳しくなる社会福祉協議会の財政的な状況も踏まえて、地域の課題をボランティアや公的資金に頼るのではなく、住民自らが継続性のあるビジネスの手法を使って解決していくというコミュニティ・ビジネスに注目している。そのモデルケースとして今回、村の特産品である山芋の芽である「むかご」がこれまではただ捨てられていることに着目し、それを採取し販売することを通じて様々な村の中に活動を興していくことに取り組んでいる。

具体的な内容

- ① むかごの採取・パッキング（商品化）
- ② 販売・イベントの実施など
- ③ 収益による地域福祉活動の実施

構成図1：ぼぼねっと企画／むかごちゃんプロジェクトによる地域福祉活動の活性化事業モデル

構成図2：ぼぼねっと企画／むかごちゃんプロジェクト（地域福祉活動の活性化事業モデル）の概要（p.247, 248 参照）

松本大学の参加（第1ステージ・第2ステージ）

① アウトキャンパススタディ（授業として）のポイント

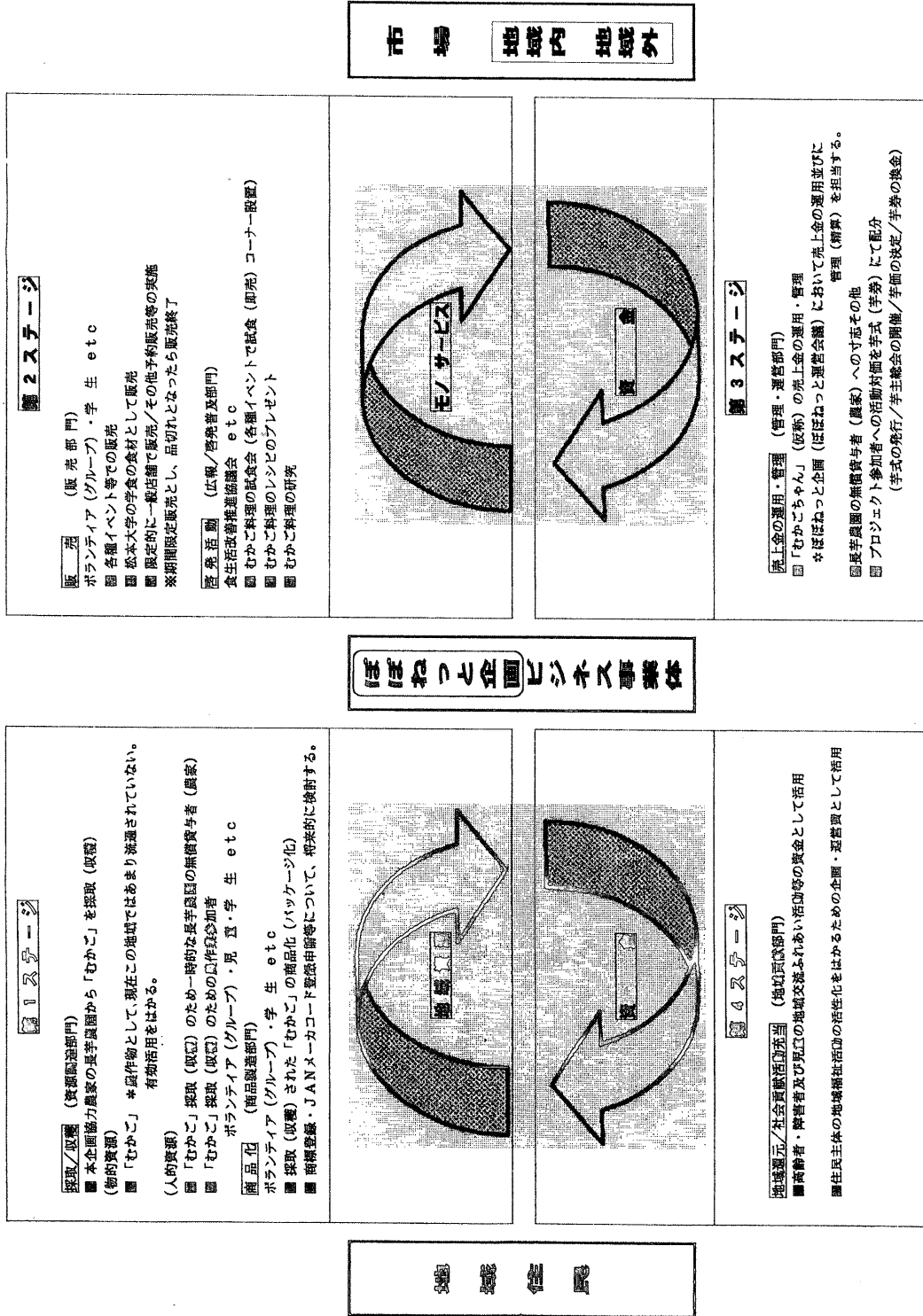
- a. 市町村合併に対して地域の自立を図るとの趣旨が具体的な活動に結びついている点
→ 社会福祉協議会の考え方
- b. ただ利益をあげるのではなく、様々なプロセスを通じて地域の活動を生み出す点
→ 「かご」を300円で買い取る、芋式による支払い
- c. 活動を通じてこれまで社会福祉には関係が小さかった個人や団体と連携している点
若いお母さん、村外から転入してきた人、食生活改善グループなどの参加

② 授業以外の取組

ボランティアセンターの運営に学生が関与しこのプロジェクトでも市場調査などを実施

構成図 1

ぼぼねっと企画/むかごちゃんプロジェクトによる地域福祉活動の活性化事業モデル



構成図 2

ばばねっと企画／むかごちゃんプロジェクト（地域福祉活動の活性化事業モデル）の概要

■「ばばねっと企画」について

住民が主体となつて行うことができ、地域福祉（地域生活支援）活動（誰もが安心して暮らせる福祉の地域づくり、地域住民による支え合い・助け合い活動）の創造とその活性化をはかるために、任意に組織された事業体です。
 コミュニティ・ビジネス（地域循環型経済システム）の一角として起業させ、これにより地域組織化活動の推進（活性化）をはかります。

「ばばねっと企画」による活動の基本的な考え方（コンセプト）

- 住民の自主的・自発的・主体的な地域福祉活動の推進（活性化）をはかる。
- あらゆる地域資源を巻き込み、地域を組織化して展開する地域福祉活動の創出をはかる。
- コミュニティ・ビジネス（地域循環型経済システム）として起業させ、安定的・継続的な地域福祉活動の展開をはかる。

この組織は、地域のボランティア、各種団体、学生等の自主参加者により構成されます

「ばばねっと企画」 平成15年10月7日/任意団体として創設・起業

事業所 社会福祉法人 山形村社会福祉協議会
 役員構成 ばばねっと企画運営会議 代表 野村俊介 その他関係者で役員を構成する。
 事務局 山形村社会福祉協議会/地域福祉推進委員会事務局

■「むかごちゃんプロジェクト」の編成について

「ばばねっと企画」による活動を実践するために編成した一つのプロジェクト。
 おおむね資源調達・商品製造部門、販売・広報部門、管理・運営部門、地域貢献部門など活動を4つのステージに分轄（別紙）して、これを地域循環型経済システムとして組み込み、事業展開がはかられます。

また、このプロジェクトの実践活動において、地域住民は、顧客、支援者、事業の担い手、経営資源の供給者となり、いろんな立場からこの活動に参画できます。

* コミュニティ・ビジネス
 地域住民が主体となり、地域の資源（人・モノ）を活用しながら、地域にある様々な課題を解決するビジネスです。
 コミュニティ・ビジネスの目的は地域社会への貢献です。しかし、継続的に安定したサービスを提供するため、経営というビジネスの視点を取り入れるものです。

事業所	住所	〒390-1301 長野県筑摩郡山形村4520-1 山形村保健福祉センターいちいの里内
	電話	0263-97-2102
	Fax	0263-97-2101
	E-mail	poponet@axel.ocn.ne.jp

地域通貨の導入－芋券（むかご券も含む）による報酬制度（第3ステージ）

① 株式ならぬ芋式制度の目的

「むかごちゃんプロジェクト」はコミュニティ・ビジネスである。ビジネスの一種である以上、むかごを集めてきてくれる一般参加者にも現金の報酬が必要だが、むかごの収穫量は年ごとに変化する為、現金との交換価格も大きく揺れ動く。不作で1キロ100円だったのが、他の畑で大量に発見されて翌日には1キロ50円に下落し、換金で損をした・・・などということも考えられる。それに、報酬を直接現金で払うのは、何だか味気がない。

そこで、参加者の集めてきたむかごと現金との交換の間に、株式ならぬ「芋式」を設ける。この芋式は、一定重量のむかごを集めてきた参加者に「芋券」を発行し、期末の「芋主総会」で当期の利益を報告の上、芋券1枚あたりの配当「芋価」を決定、芋券との換金（配当）を行う・・・という、株式制度に似た仕組みである。

芋主総会を通じて、透明性の高い決算報告と参加者相互の交流を行うことが、この「芋式制度」の狙いである。また、芋価と現金の交換価格が年度期末に決定される為、相場の変動による混乱も最小限に抑えられる。

一方で、配当までに時間がかかる為、短期間で現金収入を得たい人には魅力的ではない・・・という欠点もある。しかし逆を返せば、期末まで粘り強く取り組む者が残り、かえって活動の質が高まることも考えられる。

こうした利点を踏まえ、一般参加者には「芋式」による報酬制度を試験的に用いる。良い結果が得られれば、他の部門にも「芋式」を導入していくことになるかも知れない。

また、もしもこの芋式制度が地域に定着すれば、「芋券」を地域通貨に転用することも考えられるだろう。

② 芋式制度の運用方法

- a. 農家ではない一般参加者が、むかごを集めてくる。
- b. 集めたむかごを、社協で引き取る。むかご1gにつき「1ムカゴ」という小単位を発行する。いきなり芋券を発行するわけではない。
- c. 1000ムカゴを満たすと、芋券が発行される。つまり、1kg分で芋券1枚が発行される計算である。
- d. 芋券を持つ者は「芋主」となり、芋主総会への参加権を得る。ただし、株式とは違い、株券が何枚あっても、総会での議決権は1人分だけ。
- e. 期末に「芋主総会」が開催される。この芋主総会では、1年間の事業の決算報告が行われ、売上から諸々のコストを差し引いた利益の額が発表される。
- f. 残った利益が芋券の枚数分に等分され、芋券1枚あたりの配当額「芋価」が決定される。
- g. 芋価に基づき、芋券が現金と交換される。芋券の枚数分だけ配当が貰える為、むかごをたくさん集めた参加者ほど、多くの配当がある。

なお、芋主総会に欠席した芋主も、一定期間内であれば社協の窓口で換金できるものとする。

③ 注意事項

芋券は株と同じく、暴落する可能性がある。むかごプロジェクトが赤字になった場合、利益は発生せず、従って配当も得られない。

また、配当額の芋価は、利益の残りから決定される。期末の売上高から諸々のコストを引いた後、地域に（例えば車椅子を寄贈するなど）何らかの償却を行い、その残りから配当が支払われる。つまり、参加者個人への配当よりも地域全体の利益が優先される。

平成15年度むかごちゃんプロジェクト決算報告（第3ステージ・第4ステージ）

むかごちゃんプロジェクトのむかごの売上は245,300円となり、全収入は255,300円であった。運営費を除いた182,523円の内から、ベビー用ラックや児童館リ克雷ション用具（トランポリン、ドミノ）を購入して「ふれあいの館」へ贈呈し、児童館に来館する子供達に有効使用していただくことになった。また、山形村ボランティアセンターにはセンターの貸出用具としてヘタンクを贈呈し、屋外のリ克雷ションに利用していただくことになった。

また、ボランティアで参加していただいた方々へは、収穫ボランティアへ23,540円、作業ボランティアに39,640円の合計63,180円の配当金（芋券・むかご券）を発行することができた。

「地域へ還元」と「ボランティアへの配当金支払」の両方が実現できたことは今回のプロジェクトは小規模ではあるが成功と見なすことができ、今後の地域福祉活動の活性化に弾みをつけたと考えられる。

平成15年度むかごちゃんプロジェクト収支決算書

収入決算額 255,300円
 支出決算額 230,756円
 収支差引額 24,544円

収入の部

科 目	本年度決算額	備 考
寄付金	10,000円	情報提供料
売 上	245,300円	籠101個・箱329個
合 計 額	255,300円	

支出の部

科 目	本年度決算額	備 考
運 営 費	72,777円	エコークラフトテープ 5,019円 ボンド・バンド 793円 ビニール袋・エアパック 5,922円 箱 代 (600個) 33,810円 返信用ハガキ代(500枚) 19,950円 料金受取払(1枚70円) 910円 印鑑代 2,940円 ラベル代 1,837円 贈答分送料 550円 麻ひも代 1,046円
地域貢献予定額	94,799円	児童館レクリエーション用具 56,999円 プー&ピグレット トランポリンDX 1個 アンパンマン トランポリン 1個 ロイヤルハイローラック ブルーイン 2個 ドミノ 1セット ボランティアセンター貸出用具 37,800円 ベタンク 1個
配当金予定額	63,180円	収穫ボランティア 23,540円 [100むかご×23枚・200むかご×52枚 1芋×105枚] 作業ボランティア 39,640円 [100むかご×20枚・200むかご×6枚 1芋×195枚]
合 計 額	230,756円	

平成15年度むかごちゃんプロジェクトからの贈り物

【第4ステージ】

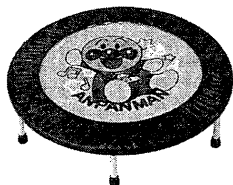
地域還元/社会貢献活動充当 (地域貢献部門)

- 高齢者・障害者及び児童の地域交流ふれあい活動等の資金として活用
- 住民主体の地域福祉活動の活性化をはかるための企画・運営費として活用

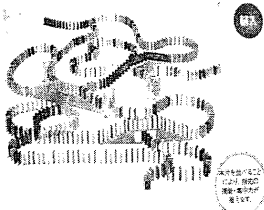
地域還元：94,799円



ベビー用ラック：12,999円
×2

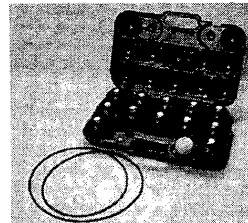


トランポリン：5,499円
×2

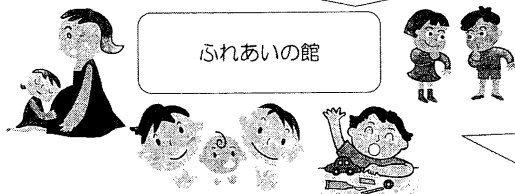


ドミノゲーム

ドミノ：17,290円



ベータンク
屋外用：36,000



ふれあいの館

ふれあいの館(児童館)に贈られ、児童館に来る子供たちの遊具として、また子育てサロン等に使用されます。



山形村
ボランティアセンター

ボランティアセンターの貸出用具として置かれ、住民の方々の行事等に役立られます。